

令和３年度 社会福祉法人若槻ホーム 事業計画

令和３年４月１日

I. 経営理念 『感動を呼ぶホームを目指そう』

- ### II. 基本方針
- 1 人間尊重
 - 2 衆知を集めた経営
 - 3 一級の社会人

III. 中期計画(令和３年～令和５年度)

1. スローガン

「ご利用者の暮らしと笑顔を大切にしよう」

2. 中期方針(目標)

「自立支援を目標に」

3. 重点事項

- (1) 自立支援・重度化防止へ取り組みます。
 - ① 寝たきり予防、重度化防止へのケアマネジメントを推進します。
 - ② 褥瘡予防とその管理を徹底します。
 - ③ 排泄行為の自立支援に取り組みます。
 - ④ 生活環境を整え暮らしやすさを目指します。
- (2) 感染症や災害への対応力を強化します。
 - ① 各委員会の見直し、指針の整備、研修・訓練を実施します。
 - ② 業務継続に向けた取り組みを強化します。
 - ③ 地域、近隣施設と連携し災害への対応を強化します。
- (3) 地域包括ケアシステムを推進します。
 - ① 認知症ケアを強化します。
 - ② 看取り介護を充実させます。
 - ③ 地域住民、ボランティアとの連携を強化します。
 - ④ オレンジカフェへの支援継続と新たな取り組みを検討します。
- (4) 介護人材の確保と介護現場の革新を行います。
 - ① 業績評価システムの運用を行います。
 - ② 全職員が受講できる年間教育計画を策定します。
 - ③ 職場環境改善による職員の離職防止と介護人材確保を行います。
 - ④ 面会、サービス担当者会議におけるリモートの活用を推進します。
- (5) 提案活動による衆知の結集
12件／年・人の改善提案を目指します。

(6) 収支改善及び施設・設備等の改善を行います。

- ① 事業見直しによる収支改善を目指します。
- ② 設備等老朽化への対応を行います。

IV. 令和3年度 各事業の目標値

1 特別養護老人ホーム（本館）	定員 50 名（稼働率 97%）
2 短期入所生活介護（本館）	定員 10 名（稼働率 95%）
3 地域密着型介護老人福祉施設（別館）	定員 29 名（稼働率 97%）
4 短期入所生活介護（別館）	定員 9 名（稼働率 95%）
5 若槻ホームデイサービスセンター	定員 30 名（稼働率 100%）
6 若槻ホームケアプランセンター	定員 30 名／介護支援専門員 1 名

V. 令和3年度重点項目への各事業の対応

1、自立支援・重度化防止へ取り組みます。

(1) 寝たきり予防、重度化防止へ取り組みます。（全事業）

- ① 専門職によるケア会議を開催します。
 - i 寝食分離、整容等の基本ケアに重点を置きます。
 - ii 自分で出来る事を評価し、サービス計画に反映させます。
- ② 機能訓練計画書を整備します。
 - i 生活相談員、管理栄養士、看護師が共同で機能訓練計画を作成します。
 - ii ご利用者の生活機能の維持向上に重点を置き目標設定をします。
- ③ ご利用者の望む生活をサービス計画に盛り込みます。
 - i 感染予防に努めながら外出・外食等の個別の希望を実現します。
 - ii 趣味活動の継続を援助します。

(2) 褥瘡予防とその管理を徹底します。（特養本館・別館・短期・通所）

- ① 褥瘡発生高リスク者を随時確認します。
 - i 低栄養状態確認のため、年1回以上のアルブミン検査を実施、高リスク者は年2回以上行います。
 - ii 毎月の体重測定による栄養状態の確認に努めます。
- ② 褥瘡予防委員会を開催します。
 - i 高リスク者の確認、状態経過の確認を行います。
 - ii 機能訓練指導員・看護師指導による体圧分散・体位交換研修を年1回以上行います。
 - iii 褥瘡予防用具を活用します。

(3) 排泄行為の自立支援に取り組みます。（特養本館・別館）

- ① 排泄アセスメント（調査）を年2回以上実施します。
- ② 確認評価を基に専門職による会議を行い排泄行為の改善に努めます。
排泄機能向上（オムツを外す）に向けた支援を行い、オムツ使用者の70%以下を目指します。

(4) 生活環境を整え暮らしやすさを目指します。（特養本館・別館・短期・通所）

- ① 事故防止に向けた環境改善を行います。
 - i 居室内の整理整頓に努めます。
 - ii 共有スペースの危険個所の点検を 4 月 10 月の 2 回実施します。
 - iii 危険個所の修繕を速やかに行います。(法人・事務)
- ② 新たな面会スタイルを構築します。(特養本館・別館)
面会場所・時間等について、ご家族の意見を聞きながら、満足度の高い面会を実現できるよう検討します。
- ③ 医療福祉機器の安全確保に努めます。
 - i 点検手順等のマニュアルを見直し作成します。
 - ii 安全が確保できない機器は順次更新します。

2、感染症や災害への対応力を強化します。(全事業)

(1) 委員会の見直し、指針の整備、研修・計画を実施します。

- ① 感染症・災害等に関する事故防止委員会を毎月開催します。
事故防止委員会の構成は、委員長：統括施設長 委員：各施設長、部署別責任者、看護師、介護士、栄養士、他とする。
- ② 感染症予防・対策、災害に関する指針を年 1 回見直します。
 - i 感染予防、事故に関する指針は 4 月に見直します。
 - ii 火災、土砂災害に関する指針は 5 月に見直します。
 - iii 見直し完了した指針は 6 月以降各会議で周知します。
- ③ 感染症研修、災害に対する訓練(シュミレーション)を年 1 回以上行います。
 - i 感染症研修：新入職員は入職時実施。他は各会議で年 2 回実施します。
 - ii 災害訓練：6 月地域住民との合同訓練、11 月施設内訓練を実施します。

(2) 業務継続に向けた取り組みを強化します。(法人本部・全事業)

- ① 感染症発生・災害直後からの業務継続ガイドラインを作成します。
 - i サービス継続に向けた措置を講じます。
 - ii 利用者の安全確保に向けた措置を講じます。
 - iii 職員の安全確保に向けた措置を講じます
- ② 情報の収集・発信経路の明確化と緊急案件への対応方法を確立します。
 - i IT を使った緊急連絡網を整備します。
 - ii 部署別伝達経路を明確化します。

(3) 地域近隣施設と災害への連携した対応を強化します。

応援協力の依頼先及び連携内容を明確化します。

3、地域包括ケアシステムを推進します

(1) 認知症への対応力を強化します(全事業)

- ① 認知症に関する有資格者の資格取得を推進します。
長野県社会福祉協議会主催の認知症介護実践者研修に 2 名以上参加します。
- ② 認知症研修を実施(2 回/年度)します。
認知症研修受講者を中心に研修計画を作成し研修を実施します。

(2) 看取り介護を充実させます。(特養本館・別館)

- ① 「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」等の内容に沿った取り組みを行います。
- ② ご利用者の意思を尊重した計画作成のために、家族・施設の関係者が協力して計画を作成し、計画に沿ったサービスを提供します。
- ③ ガイドラインに即した指針の見直しを行います。
- ④ 看取りに関する研修を年1回以上実施します。

(3) 地域住民、ボランティアとの連携を強化します。(法人本部・全事業)

- ① コロナ禍における各種ボランティアと新たな試みを検討、実施します。
- ② 災害時における地域住民との協力体制の確認と周知を行います。
地域住民との合同防災訓練時に協力体制の確認及び訓練を実施します。
- ③ 地域住民及びボランティアとの新たな方式による交流方法を検討します。
「若槻ホーム祭り」開催に向けての検討会の実施。(4月から6月経営会議他)
- ④ 運営推進会議、入所判定会議を地域住民代表者と行います。(本館・別館特養)

(4) オレンジカフェの支援継続と新たな取組を検討します。(法人・地域包括・居宅・通所・短期)

- ① 運営代表者との連絡会議を行い、感染症に配慮した新たな運営方法を検討します。
- ② オレンジカフェを通じ認知症の方でも住みやすい地域作りを推進します。
- ③ 地域住民との交流を通して、地域内の福祉の課題を把握し解決に努めます。

4、介護人材の確保と介護現場の革新を行います。(全事業)

(1) 業績評価システムの運用を継続します。

- ① 業務評価システムに沿い賃金体系を見直します。(2月)
- ② 職員の職場希望調査を行い働きやすい環境作りに努めます。(9月)

(2) 全職員が受講できる年間教育計画を策定します

- ① 関係職員による年間教育計画会議を開催します。(2~3月)
- ② 個人別研修受講記録を作成しキャリアレベルの確認を行います。(研修担当者)
- ③ 法人内専門職による楽しい研修開催に心がけます。

(3) 職場環境改善による職員の離職防止と介護人材の確保を行います。

- ① 特定処遇改善加算配分ルールを見直し職員の処遇改善の努力をします。
(第1回支払日 11月30日 第2回支払日 翌年度5月31日)
- ② 職場環境調査を行い改善に努めます。(事故防止委員会)
休憩所・喫煙所の環境整備
- ③ 労働局主催の「福祉の職場説明会(8月・11月・2月開催)」をはじめとする求人説明会へ採用状況を確認しながら積極的に参加します。
- ④ 県内福祉養成機関との連携を密にし、新卒採用者2名以上の採用を計画的に行います。
- ⑤ 安定雇用に向け、介護実習関係の受け入れを積極的行います。
受入学校：長野社会福祉専門学校 信州スポーツ医療福祉専門学校 長野県介護

(4) 面会、サービス担当者会議、研修等での ICT（Information and Communication Technology）の活用を推進します。（全事業）

- ① 施設ご利用者の人権に配慮し、リモートの面会を充実させご利用者、ご家族のサービス満足度の向上に努めます。（本館・別館・法人）
- ② サービス担当者会議等に ICT を活用し、感染予防に努めるとともに、時間等のコスト削減に努めます。（居宅・地域包括・通所・短期）
- ③ ケア関連に各種テクノロジー（見守りセンサー、記録ソフト）を活用し、職員の負担を軽減するとともに、業務の効率化を図り、人員配置を検討します。
- ④ テクノロジーの活用により、文書作成の負担軽減や回覧文書の軽減を図ります。

5、提案活動により衆知を結集した運営に努めます。（法人・全事業）

- (1) 提案件数 500 件（1 人平均 12 件）／年度 以上を目指します。
- (2) 効果金額 100 万円／年度 以上を目指します。

6、収支改善及び施設・設備等の改善を行います。（法人・全事業）

(1) 事業見直しによる収支改善を目指します。

- ① 各事業の収入支出バランスに配慮した職員配置の見直しを行います。
本館・別館の職員（事務・看護・介護・栄養等）配置の見直しの実施。
- ② 各事業の拡大縮小について検討します。
- ③ 在宅サービス事業所を地域交流棟へ移転することを検討します。（令和 3 年度）
- ④ 全職員が予算管理を自ら考え、予算達成率から収支改善に努めます。

(2) 設備等の老朽化への対応を行います

- ① 購入物品の数量管理及びコスト見直しを行います。（事務・介護）
 - i 事務消耗品の数量管理の実施
 - ii おむつの使用量、単価の確認（5 月・11 月に排泄係・生活相談員・事務）
- ② 労働局をはじめとする助成金の活用にあ努めます。（経営会議）
- ③ 老朽化による建物および設備の改修等を計画的に実施します。（法人）
 - i 本館特殊浴槽入替について検討します。
 - ii 本館居室用ベット及びベットマットの入れ替えについて検討します。

「社会福祉法人 若槻ホーム 介護職員スキルアップ研修 計画書」(案)

研修 NO	開催予定日時	研修テーマ	研修の根拠	目標とされる効果	具体的内容	担当部署	対象者	職員		
								R3年度	R4年度	R5年度
1	令和3年 4月1日(木)	全体研修	<ul style="list-style-type: none"> ・若槻ホームの経営理念及び基本方針に基づいて各業務を表現していくにあたり、経営理念・基本方針への理解を深めた上で、自らが具体的な行動を考へ、実行に移していくことが大切である。 ・若槻ホームの組織を理解することで、より良い(感動を呼ぶ)支援に繋げていく。 ・社会福祉法人の職員としての自覚を持ち行動することができる。 	組織理解	<ul style="list-style-type: none"> ・経営理念の理解 ・運営方針の理解 ・部署別目標 	法人本部	全部署 全職員			
	令和4年 4月1日()									
	令和5年 4月1日()									
	全体研修									
2	令和3年 4月1日(木)	交通安全研修	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全の基本を学び、交通事故を記さない。 ・交通ルールを徹底させた運転を心がけ、周りの車や歩行者を気遣うことができるようになる。 ・交通安全の気遣いから、日常生活での気遣いを学ぶ。 ・公用車の事故、破損を減少させたい。 	公私共に 交通事故を 起こさない、 運転ができる	<ul style="list-style-type: none"> ・交通ルールの復習 ・運転上の注意点 ・他人を気遣うこと ・公用車の破損を減らす為の対策 	事故防止委員会 デイサービス	全部署 全職員			
	令和4年 4月1日()									
	令和5年 4月1日()									
	全体研修									
3	令和3年 4月9日(金)本 4月19日(月)別 4月21日(水)デ	食事関係の研修	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者にとっての食事の意義を考へることができ、高齢者の食事に関する特徴や適切な食方法を学び、支援に繋げていく。 ・適切な食事支援を行えることで、入居者様のQOLを高めたい。 ・適切な環境や姿勢、適切な道具を学ぶことで、安全な食事支援を実現したい。 ・食事が「楽しみ」になるような支援を心がけたい。 	QOL向上	<ul style="list-style-type: none"> 《R3》 ・施設の食事の必要な カラー等紹介 《R4》 《R5》 	本・別 管理栄養士 本・別 作業療法士 本・別 食事係 デイサービス	特養 デイサービス 介護・看護 専門職			
	令和4年 4月日()本 4月日()別 4月日()デ									
	令和5年 4月日()本 4月日()別 4月日()デ									
	各会議内									
4	令和3年 5月10日(月)本 5月20日(木)別	看取りケア研修 (1回目)	<ul style="list-style-type: none"> ・若槻ホームの看取りケア指針を理解し、それに基づいた看取りケアを実践できる。 ・看取り期・死生観と共に介護職を培い、終末期の心身のケアや家族との関わりや支援に関する知識や技術を高め、より良いチームケアに繋げていく。 ・看取りケアを実践するにあたり、ご家族様及び介護職員の不安等を軽減させ、安らかな最期を迎えていただきたい。 ・看取り期のみでなく看取り前後の対応も幅広く出来るよう、深く広く考えられるようにしたい。 	尊厳の保持	<ul style="list-style-type: none"> 《R3》 ・基本的な看取りケアの 内容を理解する 《R4》 《R5》 	本館看護師 別館看護師	特養 介護・看護 専門職			
	令和4年 5月日()本 5月日()別									
	令和5年 5月日()本 5月日()別									
	各会議内									
5	令和3年 5月13日(木)	緊急時対応・ 喀痰吸引研修	<ul style="list-style-type: none"> ・人の生命を守るという意識を持ち、優れた知識と技術を通して安全なサービス提供を心がける必要がある。 ・緊急事態に臨む場合に、慌てず焦らず適切な対処できるように学習すると共に、振り返りの場を設けたい。 ・緊急の場合に様々な器具を適切に取り扱えるように普段からの訓練が必要なる。 ・様子観察の際のポイントをおさえることで、的確な判断ができるようになる。 	適切な対処	<ul style="list-style-type: none"> ・喀痰吸引の手順及び 注意点 ・酸素ボンベの取り扱い ・AED使用方法 ・様子観察のポイント 	本館看護師 別館看護師 デイ看護師	全部署 全職員 ※新人職員 及び経験年数 3年未満の職員は 出席のこと			
	令和4年 5月日()									
	令和5年 5月日()									
	全体研修									

社会福祉法人

若槻ホーム

「社会福祉法人 若槻ホーム 介護職員スキルアップ研修 計画書」(案)

研修 NO	開催予定日時	研修テーマ	研修の根拠	目標とされる効果	具体的内容	担当部署	対象者	職員		
								R3年度	R4年度	R5年度
6	令和3年 6月10日(木)本 6月21日(月)別 6月18日(金)デ	感染症対策 (1回目)	・どの感染症でも施設内に持ち込まないことを意識付ける為。 ・施設職員が自身の健康管理に気を付け、自分が患者にならないこと。 ・感染源にならないことが大切である為。 ・感染症の正しい知識を共有し、皆で同じ対応ができるようになる為。 ・感染症が発生した場合の正しい対処方法を身につける。	食中毒を 出さない	・食中毒の種類 ・食中毒の症状 ・食中毒が起きた場合の 対処方法	本館管理栄養士 別館管理栄養士 本・別 食事係 デイサービス 介護・看護 専門職	特養 デイサービス 介護・看護 専門職			
	令和4年 6月 日()本 6月 日()別 6月 日()デ									
	令和5年 6月 日()本 6月 日()別 6月 日()デ									
	令和5年 6月 日()本 6月 日()別 6月 日()デ									
	令和5年 6月 日()本 6月 日()別 6月 日()デ									
	各会議内									
7	令和3年 6月15日(火)	接遇マナー	・社会人としての基本的なビジネスマナーだけでなく 介護職員として心がけるべきことを習得する為。 ・接遇マナーを習得し、一線の社会人として組織を作っていく為。 ・接遇マナーを習得することにより、スタッフ間のコミュニケーションが 改善され、また、職場全体の雰囲気良くなる。	より良い職場を 作る	・接遇とは ・介護職員にふさわしい 接遇方法 ・気遣いのある丁寧な 言葉	本館施設長 別館施設長 デイサービス	全部署 全職員			
	令和4年 6月 日()									
	令和5年 6月 日()									
	全体研修									
8	令和3年 7月23日(金)	認知症ケア	・認知症を理解した上で支援に携わることによって入居者様が安心して 生活を営むことができる。 ・入居者様個人に合わせたチームケアを行えるようになる為。 ・認知症の基本を理解し習得することで視野を広げ、 幅広く深みのある支援に繋がっていくきたい。	認知症を理解し 入居者様が 安心できる 支援を行える	・認知症の種類と特徴 ・認知症ケアのポイント ・認知症の世界を理解し 寄り添うこと	本・別施設長 認知症介護 施設研修・実職者研修	全部署 全職員			
	令和4年 7月 日()									
	令和5年 7月 日()									
	全体研修									
9	令和3年 7月9日(金)本 7月15日(木)別 7月20日(火)デ	身体拘束廃止	・入居者様の尊厳と主体性を尊重し、身体拘束の廃止及び グレーゾーンのケアの減少を目指すことを意識つける。 ・身体拘束による弊害を理解し、入居者様の立場に立って人権を 保障しつつ支援を行えるようになる為。 ・若槻ホームの「身体拘束廃止に関する行動指針」を知ると共に 理解をし、入居者様一人一人にどのような支援を行うべきなのかを 自分自身で考え、行動できるようにする為。	身体拘束に つながらない 介護の実践	《R3》 ・ありがちな身体拘束の ようなケアについて 《R4》 《R5》	修了者 身体拘束廃止 委員会	特養 デイサービス 介護・看護 専門職			
	令和4年 7月 日()本 7月 日()別 7月 日()デ									
	令和5年 7月 日()本 7月 日()別 7月 日()デ									
	令和5年 7月 日()本 7月 日()別 7月 日()デ									
	令和5年 7月 日()本 7月 日()別 7月 日()デ									
	各会議内									

「社会福祉法人 若槻ホーム 介護職員スキルアップ研修 計画書」(案)

研修 NO	開催予定日時	研修テーマ	研修の根拠	目標とされる効果	具体的内容	担当部署	対象者	職員		
								R3年度	R4年度	R5年度
10	令和3年 8月23日(月)	褥瘡予防 (1回目)	・身体メカニズム及び入居者様個々の心身の状態を理解し、適切なポジショニングを行えるようになる為。 ※中堅職員以下・出席したことがない介護職員が参加できることが望ましい。	褥瘡予防 褥瘡対応	・圧が身体にかかる影響 ・ポジショニングの目的 ・実技	本・別 看護師 本・別 作業療法士 本・別 排泄係 デイサービス	特養 デイサービス 介護・看護 専門職			
	令和4年 8月 日()									
	令和5年 8月 日()									
	全体研修									
11	令和3年 9月10日(金)本	食事関係の研修	・高齢者にとっての食事の意義をきちんと考え、目的を持った食事支援を行える。 ・生きる為に必要な栄養を確保していただく為に、栄養に関する知識を持ち低栄養を予防できるような支援を行える。 ・低栄養を予防することで、健康状態の好循環が維持でき、OOLの向上につなげる為。	OOL向上	《R3》 ・試食など、利用者体験 《R4》 《R5》	本・別 管理栄養士 本・別 作業療法士 本・別 食事係 デイサービス	特養 デイサービス 介護・看護 専門職			
	9月13日(月)別									
	9月16日(木)デ									
	令和4年 9月 日()本									
	9月 日()別									
	9月 日()デ									
12	令和5年 9月 日()本	事故発生防止	・若槻ホームにおける介護事故防止の基本的考え方を知る。 ・支援の際に最低限守らなければならないルールを学ぶことで介護の基本的技術をおさえ、安全な支援が行えるようになる。	事故防止の 基本が理解 できる	・階級に応じた研修を 開催し、事故防止活動の 基本を周知させる。	事故防止委員会 デイサービス	特養 デイサービス 介護			
	9月 日()									
	令和5年 9月 日()									
	集合研修									
	令和3年 10月1日(金)	全体研修	・若槻ホームの経営理念及び基本方針に基づいて各業務を実践していくにあたり、経営理念・基本方針への理解を深めた上で、自らが具体的な行動を考え、実行に移していくことが大切である為。 ・若槻ホームの組織を理解することで、より良い(感動を呼ぶ)支援に繋げていく為。 ・社会福祉法人の職員としての自覚を持ち行動することができる。	組織理解	・経営理念の理解 ・運営方針の理解 ・部署別目標	法人本部	全部署 全職員			
13	令和4年 10月 日()									
	10月 日()									
	令和5年 10月 日()									
	全体研修									
14	令和3年 10月1日(金)	高齢者虐待防止 研修	・適切なケアを実現させることで虐待を防止できる。 ・不適切なケアや善意の虐待に気付く力を培い、虐待の芽を摘み取る。 ・虐待及び不適切なケアの防止策を考えられる力を培う。	虐待に気付く	《R3》 ・日常の振り返り ・どんなケアが虐待か 《R4》 《R5》	事故防止委員会 地域包括 支援センター	全部署 全職員			
	令和4年 10月 日()									
	令和5年 10月 日()									
	全体研修									
	令和5年 10月 日()									

「社会福祉法人 若槻ホーム 介護職員スキルアップ研修 計画書」(案)

研修 NO	開催予定日時	研修テーマ	研修の根拠	目標とされる効果	具体的内容	担当部署	対象者	職員		
								R3年度	R4年度	R5年度
15	令和3年 10月8日(金)本 10月21日(木)別 10月15日(金)テ	感染症対策 (2回目)	<ul style="list-style-type: none"> ・どの感染症でも施設内に持ち込まないことを意識づける為。 ・施設職員が自身の健康管理に気を付け、自分が患者にならないこと、感染源にならないことが大切である為。 ・感染症の正しい知識を全員、皆で同じ対応ができるようになる為。 ・感染症が発生した場合の正しい対処方法を身につける。 	インフルエンザ ノロウイルス コロナウイルス 予防	<ul style="list-style-type: none"> ・各ウイルスの理解 ・感染防止策 ・出勤停止事項の確認 	本館看護師 別館看護師 デイ看護師	特養 デイサービス 介護・看護 専門職			
	令和4年 10月 日()本 10月 日()別 10月 日()テ									
	令和5年 10月 日()本 10月 日()別 10月 日()テ									
	各会議内									
	令和3年 11月10日(水)本 11月15日(月)別 11月15日(月)テ		<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止活動の基本に立ち回り、事故防止について組織で取り組んでいく環境を作る為。 ・専門職としての意識を持ち、発生するであろう事故を予測し防止する力を培う為。 ・起きてしまった事故に対して原因を分析し、再発防止策を掲げ実践していく力を培う為。 	事故の予測ができる	<ul style="list-style-type: none"> ・防ぐべき事故と防げない事故の区別を行い防ぐべき事故を起こさない対策を考える。 ・日常生活における危険箇所を洗い出し、事故の原因を放置しない。 ・(今までに発生した事故の環境的要因) 	事故防止委員会 デイサービス	特養 デイサービス 介護・看護 専門職			
	令和4年 11月 日()本 11月 日()別 11月 日()テ									
	令和5年 11月 日()本 11月 日()別 11月 日()テ									
	各会議内									
	令和3年 11月19日(金) 令和4年 11月 日() 令和5年 11月 日()	介護者の腰痛の 予防と緩和	<ul style="list-style-type: none"> ・ボディメカニクスを知り、腰に負担がかからないような介護技術を獲得する為。 ・日々の業務の中(排泄支援や入浴支援等)での無理な姿勢を具体的にブロックアップし、根本的な改善へ結び付けていく為。 ・入居者様が安心して生活していく為。 	腰痛減少	<ul style="list-style-type: none"> ・腰に負担のかかる動作を知る。 ・どのような姿勢で支援を行っているのか、再確認をする。 	本・別 作業療法士 デイサービス 本・別 排泄係 本・別 入浴係	特養 デイサービス 介護・看護 専門職			
	全体研修									
	令和3年 12月20日(月) 令和4年 12月 日() 令和5年 12月 日()		<ul style="list-style-type: none"> ・口腔内の清潔を保ち刺激をすることで、身体を健康を守る。正しい口腔ケアを行う為に、口腔ケアについての理解を深め、適切な支援に結びつける。 ・高齢者の口腔内の状態を理解し、個々に合わせた支援を行える。 	OOL向上	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケアの目的と効果 ・高齢者の口腔内の状態 ・口腔ケアのポイント ・口腔ケアの手順 	本館看護師 別館看護師 デイ看護師 本・別 食事係	特養 デイサービス 介護・看護 専門職			
	全体研修									
	令和3年 12月20日(月) 令和4年 12月 日() 令和5年 12月 日()									
	全体研修									

「社会福祉法人 若槻ホーム 介護職員スキルアップ研修 計画書」(案)

研修 NO	開催予定日時	研修テーマ	研修の根拠	目標とされる効果	具体的内容	担当部署	対象者	職員		
								R3年度	R4年度	R5年度
19	令和3年 1月7日(金)本 1月17日(月)別 令和4年 1月 日()本 1月 日()別 令和5年 1月 日()本 1月 日()別 各会議内	看取りケア研修 (2回目)	・若槻ホームの看取りケア指針を理解し、それに基づいた看取りケアを実践できる。 ・看取り期・死生観と共に介護職を担い、終末期の心身のケアや家族との関わりや支援に関する知識や技術を高め、より良いチームケアに繋げていく為。 ・看取りケアを実践するにあたり、ご家族様及び介護職員の不安等を軽減させ、安らかな最期を迎えていただきたい。 ・看取り期のみでなく看取り前後の対応も幅広く出来るよう、深く考えられるようになりたい。	《R3》 ・一年間の振り返りを介護主導で行う 《R4》 《R5》	本館看護師 別館看護師 専門職	特養 介護・看護 専門職				
20	令和3年 2月4日(金) 令和4年 2月 日() 令和5年 2月 日() 関係職員	次年度研修計画	・実施した研修を振り返り、次年度の研修に活かす為。 ・介護職員のみでなく各職種が協力して、研修を行いやすい、出席しやすい環境を整える為。	・日程 ・内容 ・担当者 ・研修内容を現場で活かす為には ・研修支援してきた ・今年度実施してきた ・フィードバック方法の検証 以上の件を検討する	研修担当	関係職員	統括 各施設長 各相談員 各看護師 管理栄養士 作業療法士 事故防止委員会 身体拘束委員会	統括 各施設長 各相談員 各看護師 管理栄養士 作業療法士 事故防止委員会 身体拘束委員会	統括 各施設長 各相談員 各看護師 管理栄養士 作業療法士 事故防止委員会 身体拘束委員会	
21	令和3年 2月10日(木)本 2月17日(木)別 2月17日(木)デ 令和4年 2月 日()本 2月 日()別 2月 日()デ 令和5年 2月 日()本 2月 日()別 2月 日()デ 各会議内	褥瘡予防 (2回目)	・多職種連携によるチームアプローチで褥瘡を予防する。 ・身体状況、栄養状態、皮膚状態等の様々な視点から褥瘡を考え、予防に繋げていくことができる。	褥瘡予防。 ・排泄支援と皮膚トラブル の関係について学ぶ	本・別 看護師 本・別 作業療法士 本・別 排泄係 デイサービス	特養 デイサービス 介護・看護 専門職				
22	令和3年 3月17日(木) 令和4年 3月 日() 令和5年 3月 日() 別館	ユニットケア	・若槻ホームの経営理念を理解したうえで、ユニットケアの基本に則り、若槻ホームとしてのユニットケアを確立していく為。	《R3》 ・ユニットケアの基本的な考え方の理解 《R4》 《R5》	別館相談員 別館ユニットリーダー	別館職員				